

令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価について

< 目 次 >

- I 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価
- II 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート 概要
- III 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート 総括
- IV 令和6年度 長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要
- V 「令和6年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

I 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) AI時代に対応

2 中期的目標

- 1 学校運営
 - (1) 教育課程
 - (2) 年間を通じた教育計画の作成
 - (3) 教職員間の情報共有と連携強化
 - (4) 開かれた学校づくり・情報公開
 - (5) 危機管理
- 2 教育内容・教育の課題
 - (1) 情報教育
 - (2) 教育体制及び重点目標
 - (3) 特別活動・部活動の充実
- 3 生徒指導・支援
 - (1) 生徒支援（学習指導・進路指導）
 - (2) 生徒指導・校内巡回の充実
- 4 教職員研修・資質向上
 - (1) 教職員研修
 - (2) OJTの効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和6年11月～令和7年3月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>・実施日</p> <p>教職員 令和6年11月22日(金) ～ 令和6年12月27日(金)</p> <p>生徒・保護者 令和7年2月10日(月) ～ 令和7年3月31日(月)</p> <p>【分析】</p> <p><教職員></p> <p>自己評価アンケートの回答率は100%であり、全教職員の意思が結果に反映されていると考えられる。全項目における肯定的回答（AとB）は96.4%であり、昨年度の回答より2.6ポイント上昇しており、教職員が本校の教育内容全般にわたって高い自己評価をしていると言える。</p> <p>特に、教育計画、教職員の協力体制、学校説明会、特別活動の項目が高い自己評価となっており、これらは本校の強みと考えられる。</p> <p>一方で、危機管理、情報教育、国際教育、研修体制、</p>	<p><学校関係者評価委員会></p> <p>・実施日 令和7年6月28日(土)</p> <p>・評価委員 5名</p> <p>【総括評価】</p> <p>・新入生や転編入生が大きく増加するなか、さまざまな取組が行われていることがよくわかりました。今後も生徒の皆さん、保護者のみなさまが求める教育を進めていただければと思います。</p> <p>・令和6年度も新入学と転編入学の志願者が大きく増加したことに伴い、教員と事務職員のいずれも事務量の増大に苦労したとのこと。働き方改革の観点から、教職員の負担が増加することなく対応できる組織体制の構築が必要と思われる。</p> <p>・分析されたとおり、教育内容全般にわたり、教職員全体が相互理解に基づいて教育活動を実践していることが自信を持った評価につながっている。通信制高校への注目が集まる中、長尾谷高校の更なる活躍に期待します。</p>

人権教育等の項目についてはBの回答も多いことから、今後とも学校全体として改善の余地があると思われる。

<生徒>

全項目における肯定的回答は86.1%であり、昨年度の回答より4.6ポイント下回っている。学校生活のルール、ホームページやNCC、特別活動の項目が高い評価となっており、教職員の自己評価とほぼ同様である。

一方で、国際理解教育や部活動の項目については、否定的回答も若干みられる。国際理解教育に関しては、Eクラスに設置や海外語学研修も実施しており、部活動に関しても、7部が全国大会等出場の顕著な成績を挙げていることから、生徒への周知不足が要因の一つと考えられる。

また、学校生活は楽しいかという質問に対しての肯定的回答は78.9%となっている。約2割の生徒が楽しく思っていないという現状を重く受け止め、生徒の満足度向上のための更なる改善が必要である。

<保護者>

全項目における肯定的回答は84.9%であり、昨年度の回答より1.9ポイント下回っており、教員や生徒よりやや低い回答となった。一方で、学校説明会や特別活動などの項目は生徒評価と同様に高い評価となっており、本校の魅力や特色がよく理解されていることがわかる。

また、この学校で学ぶことがよかったの項目の肯定的回答が93%であることは、教職員の日頃の地道な努力の積み重ねの成果であり、励みとするところである。

・生徒の特性に起因するさまざまな課題に対して、教職員が連携しながら丁寧に対応されている点は学校として大きな強みであり、高く評価されるべき取組である。また、学校説明会の工夫をはじめ、学校生活におけるルールの明確化、生徒指導、特別活動の充実、更にはNCC等を活用した情報発信など、多岐にわたる活動が生徒・保護者から高い評価を得ていることは、教職員の熱意と尽力の賜物であり、本校の優れた特色として評価したい。今後は、教職員研修の一層の充実やITの積極的な活用を契機として、生徒との双方向的な授業やアクティブラーニングの更なる推進が図られることを期待するとともに、引き続き、課題を抱える生徒への対応において、その質的強化が図られることを強く願うものである。

・京都校の移転・開校など、負担の大きい状況においても、様々な生徒のニーズを踏まえた学校運営が行われている。ICT機器の充実等、時代の要請に応え、通信制高校における競争力を担保していけるよう、一層のご尽力を期待する。

※各項目の詳細については、別添資料「V『令和6年度長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。

3 令和6年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程 教育課程内容の検証	ア学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	教育課程は学習指導要領の趣旨内容に的確に対応している
	(2) 教育計画 教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めている
	(3) 情報共有と連携 ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	緊密な連絡で相互理解に努め、共通意識をもって取り組んでいる
	イ 教員と事務職員間の連携	両者間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	教員と事務職員間の情報交換の機会を増加し相互理解連携を図っている
	(4) 情報公開 ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	掲載する情報量や更新スピードについては、なお改善の余地がある
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校見学・説明会の充実のために、学校全体で取り組んでいる
	(5) 危機管理 危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	周知徹底や各種訓練の充実については、なお改善の余地がある
	(1) 情報教育 情報能力育成、情報モラル指導	IT活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	情報リテラシーや情報発信モラルの育成については、全教職員で取り組む必要がある
	(2) 教育体制及び重点目標 ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	対面指導（面接指導）を通じて、生徒と向き合う粘り強い指導が展開されている
イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	コロナ禍や国際情勢の流動化の中でも、セブ島への語学研修を実施し、国際教育の充実に努めている	
(3) 特別活動・部活動 特別活動・部活動の充実	特別活動の実施内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加し、部活動実績を2～3部向上させる	特別活度は多種多様に開催実施しており、部活動においても複数の部において優れた実績が残せた	

3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援 (学習指導・進路指導)			
	ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	個別相談等で一人ひとりの実態を見極めつつ、生徒の要望に即した指導の実践に努めている
	(2) 生徒指導・校内巡回の実施			
	生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる	教職員間の共通認識のもと、カウンセリングマインドを持って、生徒とのより良いコミュニケーションが図られている。問題行動数は減少傾向にある
4 教職員研修・資質向上	(1) 自己研修・資質向上			
	研修体制の充実	自らの資質向上に努める	自らの資質向上に務めているか	教員の資質向上については研修参加等、各自向上心をもって進めている人権教育の進化充実については、なお改善の余地がある
	(2) OJT			
	OJTの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができているか	管理職、及び経験豊富な者からの適宜・適切な指導・助言の実践が行われており、教職員全体の資質向上につながっている

4 【自己評価アンケートを踏まえた 令和7年度の改善点】

(1) ICT活用能力や情報発信モラルの育成

情報通信技術の急速な進展や新型コロナウイルス感染症の全国的流行等をきっかけとして、ICT機器を用いた教育は一層重要性を増している。また、生徒や保護者のスマートフォン等への依存は、一層その程度を増している。このような中にあるのは、教職員一人ひとりが、ICT機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫・改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが何よりも重要である。また、情報教育の充実について全校的な視野から研究・検討を進めるとともに、東洋学園全体の校務運営・情報管理システムそのものについても、学園本部との連携のもとで改善・充実に向けた取り組みを進めることが急務である。

(2) 国際的視野に立った思考力・判断力の育成

国際情勢の緊迫化・流動化・複雑化を受けて、国際的視野に立った思考力・判断力の育成が一層重要性を増している。Eクラスの海外語学研修(フィリピン・セブ島やマレーシア・クアラルンプール)や海外語学スクーリング(カナダ・バンクーバー等)の充実を努めるとともに、生徒・教職員のいずれもが様々な機会をとらえて国際的知見を深めるよう努力しなければならない。

Ⅱ 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート概要

2024（令和6）年度の学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動について、関係教職員、生徒、保護者による自己評価を実施した。

教職員用

・アンケート内容

学校法人東洋学園の中期・長期経営目標や長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は20問とした。なお、質問数や内容は昨年度までと同じである。

・アンケート対象者

枚方本校・梅田校・奈良分室・なんば校のすべての常勤教員55名と事務総括主任1名の計56名を対象とした。

・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

生徒・保護者用

・アンケート内容

生徒・保護者向けのアンケートについては、昨年度に引き続き今回が2回目の実施である。長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は2問増やして計22問とした。

・アンケート対象者

枚方本校・梅田校・なんば校に在籍するすべての生徒・保護者を対象者とし、その中から生徒470名、保護者475名から回答を得た。

・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

【令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙 (教職員用)】

所属校()名前()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応	1	学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか	
	連携	教員間連携	3	教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか	
		教員と事務職員との連携	4	各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか	
	情報公開	学校HPの充実	5	学校HPなど公開する情報は日常的に点検、更新されていますか	
		学校説明会の充実	6	説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか	
	危機管理	危機管理マニュアル	7	役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか	
教育内容	情報教育	情報教育の充実	8	IT活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか	
	教育体制	人間性を培う教育の充実	9	生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか	
			10	生徒が興味関心を持てるような面接指導(授業)の充実が図られていますか	
		国際教育の充実	11	国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか	
	特別活動・部活動	充実と活性化	12	特別活動の実施内容は充実していますか	
			13	部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか	
	生徒支援指導	生徒指導体制の確立	学習指導、進路指導の充実	14	生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか
指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察			15	生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか	
生徒支援		支援を必要とする生徒	16	特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか	
教職員質向上修	研修体制の充実	研修体制の充実	17	教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか	
		人権教育の充実	18	学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行えていますか	
	資質向上	業務遂行の際の連携協力	19	業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか	
			20	指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか	

【令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（生徒用）】

より良い学校づくりのためのアンケートにご協力をお願いします。

アンケートの回答は、成績などに関係するものではありません。

次回登校する際、保護者用と共に職員室まで持参してください。（提出期限3月末）

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない

番号	設 問	評 価			
		A	B	C	D
1	学校生活は楽しい。				
2	学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	学校の授業はわかりやすい。				
4	先生は授業やレポートのわからない点を丁寧に教えてくれる。				
5	相談や質問など、先生に話しやすい。				
6	先生は学習で努力したことを認めてくれる。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	先生は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	国際社会について学んだり、海外の文化について考えたりする機会がある。				
15	命の大切さや人権について学ぶ機会がある。				
16	パソコンなどのICT機器活用能力やSNSなどの使い方(情報発信モラル)について学ぶ機会がある。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	部活動は盛んである。				
19	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
20	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
21	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
22	この学校で学ぶことができて良かった。				

【令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙 (保護者用)】

学校教育目標にもとづく教育活動や学校運営の状況等について評価・改善を行い、
教育の質を高めることを目的とした学校評価を実施いたします。本校教育の一層の充実・改善
に向け、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

お子様が次回登校する際、生徒用と共に職員室までご持参ください。(提出期限3月末)

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

番号	設 問	評 価			
		A	B	C	D
1	お子さんは、学校生活が楽しそうである。				
2	お子さんにとって、学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	お子さんは、学校の授業はわかりやすいと言っている。				
4	教員は、生徒を理解し、親身になって指導している。				
5	教員は、生徒の評価を適切・公平に行っている。				
6	学校は、保護者の相談に適切に応じている。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	教員は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	学校は、国際社会や海外の文化についての学びの時間を設けている。				
15	学校は、命の大切さや人権についての学びの時間を設けている。				
16	学校は、ICT活用能力や情報発信モラルについての学びの時間を設けている。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	部活動は盛んである。				
19	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
20	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
21	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
22	この学校で学ぶことができて良かった。				

Ⅲ 令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート総括

2024（令和6）年度の学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動に係る関係教職員、生徒、保護者による自己評価の集計および分析結果について報告する。

教職員アンケートの集計および分析結果

全回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は96.4%であり、昨年度の回答より0.2ポイント上昇しており、教職員は、本校の教育内容全般にわたって概ね高い自己評価をしているといえる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が100%】

全20問中、①「学習指導要領への対応」、②「教育計画について」、③「教員間連携」、④「教員と事務職員との連携」、⑥「学校説明会の充実」、⑩「人間性を培う教育の充実」、⑫「特別活動の充実」、⑳「自己研鑽」の8項目が該当する。

学習指導要領の完全実施をふまえ、年間を見通した学習指導が全校・全教科・全科目で展開されていることがわかる。

特に、生徒獲得や志願者数増加にむけた生命線である学校説明会の充実については、総合企画室や学園本部広報部を中心にわかりやすいパンフレット・学校案内・募集要項を作成するとともに、各校での学校説明会の充実、外部相談会、中学校・高等学校訪問等の広報活動に多くの教職員が積極的に参加した。その結果、令和6年度は前年度に比べ入学者が大幅に増加したことは特筆に値する。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全20問中、⑤「学校HPの充実」、⑦「危機管理の徹底」、⑨「人間性を培う教育の充実」、⑭「学習指導、進路指導の充実」、⑮「指導方針の共通理解」、⑯「生徒支援」、⑰「業務遂行の際の連携協力」の7項目が該当する。

さまざまな課題を抱える生徒が多く在籍する中で、全教職員が指導方針を共通理解し、基本的人権を尊重しながら丁寧にカウンセリングマインドをもって生徒に対応していることがわかる。全教職員の緊密な報告・連絡・相談体制の下で、生徒一人ひとりに寄り添った指導が展開されていることも本校の大きな特色であることがわかる。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全20問中、⑪「国際教育の充実」、⑬「部活動の活性化」、⑱「人権教育の充実」の3項目が該当する。

通信制高等学校は生徒の登校日が限定的かつ個人により異なるため、指導を充実させるのが難しい側面があるが、国際教育や部活動、人権教育など多岐にわたり、その深化、充実に向け、多くの教職員が積極的に取り組んでいることが見て取れる。

【肯定的評価が80%以上かつ90%未満】

全20問中、⑧「情報教育の充実」、⑰「教職員研修の充実」の2項目が該当する。これらの項目については、更なる充実が必要であると感じた教職員が1割以上存在する結果となった。

た。

情報通信技術の急速な進展等から、ICT機器を用いた教育は一層重要性を増している。また、生徒や保護者のスマートフォン等への依存は、一層その程度を増している。このような中であっては、教職員一人ひとりが、ICT機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫・改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが何よりも重要である。

また、教職員研修については、新任や事務職員を対象とする研修や各教科の授業研究会や実技研修会が開催されているが、今後さらに、教職員の資質向上に向けた取組の推進が必要である。

生徒アンケートの集計および分析結果

今回、枚方本校・梅田校・なんば校の生徒を対象にアンケート（22項目）を実施した。回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は86.1%であり、昨年度の回答より4.6ポイント下回った。昨年度の対象者が枚方本校のスタートクラスの生徒限定で質問数も18項目であったことから、単純比較はできないものの、生徒の大半が本校の教育内容全般にわたって高い評価をしているといえる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全22問中、⑦、⑪、⑰、⑳の4項目が該当する。

生徒は、本校のルールや生徒指導は納得できるものであり、NCCや本校の大きな特色である特別活動、そしてプライバシー保護については極めて高い評価をしていることがわかる。このことから、生徒と教職員の間には良好な信頼関係が構築され、学校に対して高い信頼を寄せていることがうかがえる。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全22問中、⑩、⑫、㉒の3項目が該当する。

生徒は、入学前の学校説明会はわかりやすく、学習環境の改善・整備等についても概ね満足していると回答している。また、大半の生徒がこの学校で学んで良かったと高く評価をしていることから、多くの生徒が本校で充実かつ満足感のある学校生活を送っていることがうかがえる。

【肯定的評価が80%以上かつ90%未満】

全22問中、②、③、④、⑤、⑥、⑧、⑨、⑬、⑮、⑰、㉑の12項目が該当する。

本校の生徒は、学習面で不安を持つ割合が高く、教職員の丁寧な学習指導を一層充実させる必要があると考えられる。また、安全教育や危機管理、情報発信モラルについては不十分と考えている生徒が一定数存在することから、教職員の一層の努力が必要であることがわかる。

【肯定的評価が80%未満】

全22問中、①、⑭、⑱の3項目が該当する。国際教育に関しては、Eクラスのマレーシア・クアラルンプール語学研修やカナダ・バンクーバーへの語学研修を実施しており、部活動に関しても、7部が全国大会等に出場するなど顕著な成績を挙げていることから、生徒への周知不足がその要因の一つとして考えられる。また、学校生活が楽しいかの項目について、否定的回答が2割あることは教職員全員が自覚し、更なる工夫や努力が必要である。

保護者アンケートの集計および分析結果

今回、枚方本校・梅田校・なんば校の保護者を対象にアンケート（22項目）を実施した。回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は84.9%であり、昨年度の回答より1.10ポイント下回った。生徒アンケート同様、昨年度の対象者は枚方本校のスタートクラスの保護者限定で質問数も18項目であったことから、単純比較はできないものの、多くの保護者が本校の教育内容全般にわたって高い評価をしているといえる。

以下、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全22問中、⑦、⑩、⑰、⑱、㉑の5項目が該当する。

保護者は、本校の特色である説明会や特別活動について、また、生徒のプライバシーに配慮した丁寧な指導についても極めて高い評価をしていることがわかる。このことから、保護者として、多くの生徒が満足して学校生活を続けていると評価していることがうかがえる。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全22問中、⑤、⑥、⑪、⑫、㉒の5項目が該当する。

保護者は、生徒評価のあり方や保護者への相談業務については高い評価をしている。また、ホームページや施設・設備等についても高い評価をしており、生徒同様、本校での学校生活に保護者として概ね満足していることがわかる。

【肯定的評価が80%以上かつ90%未満】

全22問中、②、③、④、⑬、㉓の5項目が該当する。

本校の学習指導や生徒指導、安全教育や危機管理に関して、やや課題があると考えている保護者が一定数いることがうかがえる。今後、各チューターと生徒・保護者のより緊密な連携を図り、本校に対する信頼を一層高める努力が必要であると考えられる。

【肯定的評価が80%未満】

全22問中、①、⑧、⑨、⑭、⑮、⑯、㉔の7項目が該当する。

進路に関する情報提供や相談、国際理解教育、人権教育、ICT教育等について、不十分さを感じている保護者が少なからず存在する。部活動についても全国大会等への出場実績があるものの、十分認知されていない現状がある。今後、従前の取組の周知徹底とともに、更なる深化充実に向けた新しい取組を進めていく必要がある。

全体を通して

ア 2024（令和6）年4月、京都校が府認可の「京都長尾谷高等学校」として独立、開校した。また、奈良分室については令和7年度末をもって閉室する予定であり、生徒の受け入れを中止している。

イ 学習指導面では、新学習指導要領の完全実施年となり、「生きて働く知識・技能の習得」、「未来の予知にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の学力の3観点の伸長に向けて、全教職員が目線を合わせて教育活動を推進してきた。一方で、ICT機器の充実等の時代の進展に対応した教育環境の整備は、本校にとっての喫緊の課題であることを指摘しておきたい。

- エ 2024（令和6）年度も、新入学と転入学の志願者数が増加した。教員と事務職員のいずれも、事務量の増大に苦勞したが、全教職員が協力しあいながら対応を進めてきた。
- オ 通信制高等学校に高い関心が寄せられる中で、通信教育の質の確保や教育内容の向上が重要な課題となっていることから、校内では、文部科学省の学校基本調査や大阪府私学課の基礎資料調査等に関する教職員研修を実施し、学校運営体制の改善・充実に向けた取組みを進めた。

令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈教職員分〉

質問	A	B	C	D	分析結果
1	57%	43%	0%	0%	今年度、高等学校の新学習指導要領が全面実施となったが、本校では、これに的確に対応した教育課程を編成し授業が行われている。
2	63%	37%	0%	0%	各教員が年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めていることがわかる。
3	55%	45%	0%	0%	分校内はもちろん、学校間においても教員相互が緊密に連携する中、積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながら教育活動を展開していることがわかる。
4	71%	29%	0%	0%	教員と事務職員間で緊密なコミュニケーションや連絡を取り合う中、相互理解に努め、共通意識をもって教育活動を展開していることがわかる。
5	59%	39%	2%	0%	学校HPは逐次更新されているが、入学者確保の観点から、その内容や更新スピードについて、今後も検討を進めていく必要がある。
6	77%	23%	0%	0%	中学生や高校生およびその保護者に対して、各回の学校説明会において適切な知識や情報が提供されていることがわかる。
7	31%	64%	5%	0%	「危機管理マニュアル」の教職員への周知徹底や避難訓練等の充実については、今後、改善の余地があると思われる。
8	21%	63%	16%	0%	ICT活用能力や情報発信モラルの育成については、教科「情報」の授業だけでなく、すべての教科やあらゆる教育活動を通じて、一層の充実が必要である。
9	55%	43%	2%	0%	様々な課題を持つ生徒に対して、生徒自身が自分や周囲の人々を大切にす意識を高めることができるよう、引き続き、粘り強い指導が必要である。
10	50%	50%	0%	0%	学習習慣や学力に課題を持つ生徒が多く在籍する中で、生徒に発問しながらの双方型授業やアクティブラーニングの実施が厳しい現状に多くの教員が苦心している。
11	25%	68%	7%	0%	Eクラスのマレーシア・クアラルンプール語学研修や、カナダ・バンクーバー語学研修などのプログラムが実施されているが、今後更なる充実が求められている。
12	88%	12%	0%	0%	本校では、多彩な特別活動プログラムが提供されており、教職員が協力して、一層の深化充実に向けて取り組んでいることがわかる。
13	41%	52%	7%	0%	通信制特有の学習形態や登校スタイル、4校体制など部活動の実施に関する諸課題はあるものの、複数の部が全国大会等に出場するなど、熱心な活動が続けられている。
14	57%	39%	4%	0%	進路指導については、大学・短期大学や専門学校への進学や就職の両面で、生徒のニーズに応じた適切な指導が行われていることがうかがえる。
15	61%	37%	2%	0%	様々な経緯を経て本校に入学した生徒に対して、教職員がカウンセリングマインドを持ち、生徒一人ひとりに寄り添いながら丁寧な指導が行われていることがうかがえる。
16	52%	45%	3%	0%	各分校の特別支援コーディネーターを中心に、支援を要する生徒の情報を集約しながら共通理解が図られている。
17	27%	61%	12%	0%	教職員研修については、新任教員や事務職員を対象とする研修のほか、各教科の授業研究会や実技研修会が定期的開催され、資質向上が図られている。
18	27%	64%	9%	0%	主催者を中心に、あらゆる場面を通じて人権教育に取り組んでいるが、今後一層の深化充実に向け更なる工夫が必要である。
19	59%	39%	2%	0%	各分校の管理職や中核となる教職員が中心となり、風通しの良い職場環境や報連相体制を構築し、良好なチームワークのもとで円滑に学校運営が展開されていることがわかる。
20	59%	41%	0%	0%	各教員は自身の指導力向上に向け、自己研鑽が必須であることは十分に理解しているが、一層の充実に向けて更なる努力を期待したい。

令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈生徒分〉

質問	A	B	C	D	分析結果
1	33%	45%	18%	4%	多くの生徒が学校生活にうまく適応していると思われるが、より魅力ある学校づくりをめざしたい
2	35%	48%	14%	3%	校内の学習環境は概ね落ち着いていると思われる
3	35%	52%	11%	2%	学習面で課題を持つ生徒は多いが、前向きに努力を続けていることがうかがえる
4	44%	45%	10%	1%	教員の指導ぶりは概ね生徒に肯定的に受けとめられている
5	45%	40%	12%	3%	どの生徒に対しても分け隔てなく公平に接していることが高評価につながっている
6	43%	46%	9%	2%	電話での問い合わせも含め、教職員の親切丁寧な対応が保護者に安心感を与えている
7	62%	33%	4%	1%	学校生活上のルール等についてはほとんどの生徒は理解、納得している
8	38%	43%	15%	4%	進路情報については概ね理解されているが、発信方法等について更なる工夫が必要である
9	36%	44%	16%	4%	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	53%	38%	7%	2%	説明会等は高評価を得ているが、今後もより丁寧に説明し入学者増に確実ににつなげたい
11	62%	34%	4%	0%	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	39%	52%	8%	1%	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	44%	42%	11%	3%	避難訓練等は理解が進んでいるが、生徒の安全につながる取組の充実が求められている
14	28%	42%	23%	7%	Eクラスや海外語学研修のほか、広く世界が学べる授業や特別活動の展開が必要である
15	35%	47%	14%	4%	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるよう、更なる取組の推進が必要である
16	39%	43%	15%	3%	ICT機器の活用能力や情報発信モラルの向上に向けた取組の充実が求められている
17	66%	30%	3%	1%	特別活動については本校の大きな特色であり、大部分の生徒が高評価をしている
18	21%	46%	23%	10%	毎年複数の部が全国大会出場を果たしており、HP等でより積極的な情報発信が必要である
19	43%	46%	9%	2%	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
20	59%	36%	4%	1%	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
21	45%	43%	10%	2%	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
22	57%	35%	6%	2%	ほとんどの保護者が本校での学校生活を肯定的に受けとめ高評価を得ている

令和6年度 長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈保護者分〉

質問	A	B	C	D	分析結果
1	26%	49%	22%	3%	生徒が学校生活にうまく適応していると、大半の保護者が評価していることがうかがわれる
2	29%	55%	15%	1%	校内の学習環境は概ね落ち着いていると、多くの保護者が評価していることがうかがわれる
3	25%	55%	17%	3%	学習面に課題を持つ生徒が多いが、教員の学習指導については肯定的な意見が多い
4	40%	48%	11%	1%	教員の丁寧な指導ぶりは、保護者に概ね好感をもって受けとめられている
5	48%	46%	5%	1%	いずれの生徒に対しても公平・平等に接していることが高評価につながっている
6	45%	46%	8%	1%	電話対応を含め、教職員の親切丁寧な対応が保護者に安心感を与えている
7	53%	42%	4%	1%	学校生活上のルール等についてはほとんどの保護者が理解、納得している
8	25%	43%	27%	5%	進路情報は概ね理解されているが、発信方向等については更なる改善が必要である
9	28%	43%	26%	3%	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	58%	37%	4%	1%	説明会等は高評価を得ているが、今後も工夫改善し入学者の獲得に確実につなげたい
11	53%	39%	7%	1%	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	32%	58%	9%	1%	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	29%	56%	13%	2%	避難訓練等、生徒の安心・安全を第一に更なる取組の充実をめざしたい
14	24%	53%	21%	2%	Eクラスや海外語学研修以外にも、世界が学べる授業や特別活動が求められている
15	24%	53%	21%	2%	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるような取組の推進が必要である
16	23%	55%	20%	2%	ICT能力や情報モラルは保護者も高い関心を寄せており、深化充実が不可欠である
17	60%	35%	4%	1%	本校の特別活動については、生徒同様、大部分の保護者が高い評価をしている
18	17%	52%	26%	5%	全国大会出場部をはじめ各部の活動状況については、HP等での情報発信が肝要である。
19	36%	50%	13%	1%	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
20	48%	49%	2%	1%	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
21	40%	49%	10%	1%	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
22	58%	35%	6%	1%	多くの生徒・保護者が、本校での学校生活を肯定的に受けてめている

Ⅳ 令和6年度 長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要

(名称) 名称を「長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」とする。

(目的) 1 長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。

2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。

3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

(活動) 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。

2 委員の再任は妨げない。

3 会議は校長が主催する。会議を開催できない場合は、校長が意見等を聴取する。

(事務局) 事務局を長尾谷高等学校枚方本校に置く。

(構成) 令和7年度委員 (敬称略)

森口 愛太郎 (大阪府立千里青雲高等学校長)

大西 忠典 (大阪府立東高等学校長)

端野 克也 (東洋学園高等専修学校副校長)

山田 裕二 (近畿情報高等専修学校教頭)

岩見 晃宏 (長尾谷高等学校同窓会会長)

V 「令和6年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

1 「学校運営」評価

- ・教職員のみなさまが緊密な連携とコミュニケーションをしっかりと取りながら、共通意識を持って生徒一人ひとりのための教育活動を実践してください。
- ・学校運営全般について、概ね全教職員が高評価していることから、貴校が全教職員の共通理解のもと、組織的に学校運営を行っていることがわかる。しかしながら、お子さんは学校生活が楽しそうであるとの質問に対し、保護者の25%が否定的回答であった。今後、保護者にも理解が得られるよう、より魅力ある学校運営を行っていただきたい。
- ・一般的に肯定的な評価が高く、教職員の意識が高いことが窺える。教員間の連携、コミュニケーションが取れている。情報公開や学校説明会、外部説明会等、広報活動の充実がしっかりとされ入学者の増加につながった。
- ・新学習指導要領に沿った計画性のある、教員間の連携が高いと思われる。危機管理においては、個々の意識を高めていかないと、何かが生じた際に対応が遅れることもあるので気をつけたい。
- ・教職員による授業の充実や教職員間の緊密な連携により、生徒にとって質の高い学校運営が実現されていることが窺える。特に、学校説明会の充実によって生徒数が増加している点や、学校ホームページ等を通じた定期的な情報発信により、生徒・保護者の理解と信頼を得ている点は非常に素晴らしい取組であると感じた。

2 「教育内容・教育の課題」評価

- ・さまざまな課題を持つ生徒たちに対し、自分自身はもちろんのこと、周りの人も大切にする意識や思いを高めていくことができるような教育実践を今後もお願いいたします。
- ・ICT活用能力の育成、情報モラル教育について、「あまりあてはまらない」との回答が16%と突出した低評価である。教職員全体へのICTに関する研修を充実されたい。学校の授業はわかりやすいとの質問に対し、生徒の13%が否定的回答であった。今後の更なる授業改善を模索していただきたい。
 - ・教科教育活動を通じICT活用、情報モラル育成は一層の充実が必要だと思う。特別活動など多彩なプログラムを展開されて取り組まれていることが窺える。課題を持つ生徒が多い中、人間教育の充実に粘り強く関わられておられる。
- ・情報教育や国際教育の充実と、今後に向けての内容の改善が必要かと思われる。
- ・アンケートおよび各種分析の結果から、学習面に課題を抱える生徒の割合が比較的高い状況が見受けられる。そのような中、IT活用能力の育成、国際教育の推進、人間性を培う教育の充実に取り組むことには困難を伴うと考えられる。しかしながら、特別活動に関しては、教員・生徒双方から高い評価を得ており、特色ある教育の一環として高く評価できる。また、部活動についても、一部の生徒にとっては充実した活動となっており、非常に意義のある取組であると感じられる。分析結果にある指摘のとおり、これらの活動に関する情報発信が適切に行われているかに加え、その他の生徒にも広く参加機会が

提供されているかについて、更なる配慮が求められる。今後、双方型授業やアクティブラーニングの実践にあたっては、ITの活用を一つの契機とする可能性に着目することも考えられる。特に、消極的な気質の生徒や集中力の持続が難しい生徒にとって、ITを介した学習の場が参加への足がかりとなることが期待されることから検討されたい。

3 「生徒指導・支援」評価

- ・生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な生徒指導、生徒対応をお願いいたします。また、引き続き、生徒のニーズに応じた進路指導をお願いいたします。
- ・生徒指導・支援について、概ね全教職員が「あてはまる」と回答していることから、貴校の生徒指導・支援体制の充実ぶりが窺える。しかしながら、卒業後の進路情報をよく知らせてくれるとの質問に対し、生徒の19%、保護者の32%が否定的回答であった。生徒・保護者のニーズに合った進路情報の提供方法について新たな方法を構築されたい。
- ・様々な経緯や課題を抱える生徒が多い中、全教職員が指導方針を共通理解し、丁寧に寄り添いながら生徒指導や進路指導が展開されている。生徒一人ひとりの更なる成長に期待します。
- ・生徒一人ひとりの個性を大事にしながら、進路指導に取り組む体制は全教職員で適切に行われているように感じられる。
- ・多様な背景を持つ生徒が多数在籍する中、教職員間における共通理解の醸成を図りながら、丁寧な対応がなされている点は高く評価される。発達障害、学習障害、精神疾患に加え、家庭環境に起因する課題の複雑化が進む昨今、通信制・単位制高校に求められる社会的役割は今後一層増大していくものと考えられる。そのため、教職員の資質向上はもちろん、組織的な連携による対応力の強化が望まれる。また、進路指導に関しては、生徒による評価と教職員側の認識との間に若干の乖離が見られる点が懸念される。生徒にとって、卒業後の生活に安心して歩みだせるよう、一層のご助力を願いたい。

4 「教員研修・資質向上」評価

- ・たいへんお忙しいとは思いますが、教職員一人ひとりが研修等において、自己研鑽に努めていただきたいと思っております。みなさまでその成果を共有していただき、資質向上を図ってください。
- ・教職員研修、人権研修について、僅かながら「あまりあてはまらない」との回答がある。今後一層の検討、改善を期待する。
- ・資質向上のため、教員研修の充実が4校体制でしっかりとなされている。教職員の指導力向上に向けた取組が窺える。
- ・研修内容の充実に向けた取組も、教職員個々の質の向上に向けた取組も、前向きに実施しようとしているところが見受けられる。
- ・教職員の研修体制の充実に関して、教職員による評価がやや低調である点は留意すべき事項である。教職員が現場で必要とする研修はd pのようなものか、分析・検討されることが望まれる。また、学校の特性上、課題のある生徒が多いことから、こうした生徒

への理解を一層深めるとともに、より効果的な教育内容の提供ならびに適切な生徒指導の実施が図られることが期待される。

5 「総括」の評価

- ・ 新入生や転編入生が大きく増加するなか、さまざまな取組を行われていることがよくわかりました。今後も生徒の皆さん、保護者のみなさまが求める教育を進めていただければと思います。
- ・ 令和6年度も新入学と転編入学の志願者が大きく増加したことに伴い、教員と事務職員のいずれも事務量の増大に苦勞したとのこと。働き方改革の観点から、教職員の負担が増加することなく対応できる組織体制の構築が必要と思われる。
- ・ 分析されたとおり、教育内容全般にわたり、教職員全体が相互理解に基づいて教育活動を実践していることが自信を持った評価につながっている。通信制高校への注目が集まる中、長尾谷高校の更なる活躍に期待します。
- ・ 生徒の特性に起因するさまざまな課題に対して、教職員が連携しながら丁寧に対応されている点は学校として大きな強みであり、高く評価されるべき取組である。また、学校説明会の工夫をはじめ、学校生活におけるルールの明確化、生徒指導、特別活動の充実、更には NCC 等を活用した情報発信など、多岐にわたる活動が生徒・保護者から高い評価を得ていることは、教職員の熱意と尽力の賜物であり、本校の優れた特色として評価されたい。今後は、教職員研修の一層の充実や IT の積極的な活用を契機として、生徒との双方向的な授業やアクティブラーニングの更なる推進が図られていることを期待するとともに、引き続き、課題を抱える生徒への対応において、その質的強化が図られることを強く願うものである。

6 その他、今後の学校運営についてのご意見

- ・ さまざまな情報提供をよろしくお願いいたします。
- ・ 通信制高校の人気に拍車がかかる中で、大阪の他の通信制高校との差別化を図る必要がある。長尾谷高校でしか学べない、独自性のある戦略的 school 運営を期待する。
- ・ 不登校経験のある生徒と活発な気質を持つ生徒が共に通学する、多様性豊かな教育環境において、それぞれの背景や個性を尊重した教育が推進されている。この取組は、若者の多様化の真の実現に向けた先導的な役割を果たしており、高く評価すべきものである。多様な特性を持つ生徒が安心して学び、自らの可能性を模索できる環境は、極めて高い教育的価値を有している。また、卒業後の社会的自立に向けた支援体制の整備は、今後ますます重要性を増していくと考えられる。特に、発達障害や精神障害、児童養護施設等の社会的擁護、ヤングケアラー、虐待、困難さのある家庭環境の影響を受けているなど、特別な配慮を必要とする生徒への理解と支援については、更に充実が期待される分野である。学校全体として、教育面、支援面において、柔軟かつきめ細かな対応がなされていることに深く敬意を表す。今後も、こうした取組が継続的に深化していくことを心より願う。